

令和8年度 小樽市立花園小学校 学力向上改善プラン

1 児童の実態

令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語科において全国平均正答率を上回ったが、算数科では、全国平均正答率を下回った。国語科では、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られた。算数科では、異分分数の加法計算を正しくすることに課題が見られた。

チャレンジテストでは、国語科の課題は、文章内容や考えとそれを支える理由と事例の関係をつねることである。算数科の課題は、分数の意味や比の意味の理解、文章問題で題意をつねることである。

また、児童アンケートで「普段から文章に親しむ機会がある」の肯定的回答が60.8%であった。家庭学習については、「まったく家庭学習をしていない児童」の割合は、4.7%であった。家庭学習への取組については、小中連携校共通の課題である。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・単元テストの年間学年総計点が80%以上
2年	・単元テストの年間学年総計点が70%以上
3年	・単元テストの年間学年総計点が80%以上
4年	・単元テストの年間学年総計点が70%以上
5年	・単元テストの年間学年総計点が70%以上
6年	・単元テストの年間学年総計点が70%以上

<算数科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均+5ポイント
2年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均+5ポイント
3年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均+3ポイント
4年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均+3ポイント
5年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均+5ポイント
6年	・チャレンジテスト平均正答率全道平均+3ポイント

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・家庭学習を全くしない児童0%にする。 ・ゲームやスマホ、動画視聴等の時間やルールを決めている80%
2年	・家庭学習を全くしない児童0%にする。 ・ゲームやスマホ、動画視聴等の時間やルールを決めている80%
3年	・家庭学習を全くしない児童0%にする。 ・ゲームやスマホ、動画視聴等の時間やルールを決めている80%
4年	・家庭学習を全くしない児童0%にする。 ・ゲームやスマホ、動画視聴等の時間やルールを決めている80%
5年	・家庭学習を全くしない児童0%にする。 ・ゲームやスマホ、動画視聴等の時間やルールを決めている80%
6年	・家庭学習を全くしない児童0%にする。 ・ゲームやスマホ、動画視聴等の時間やルールを決めている80%

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①各種学力調査やチャレンジテストの実施と結果分析
- ②ボランティア等による長期休業などを利用した学習サポートの実施と読書時間のもち方の工夫
- ③家庭学習の習慣化と放課後学習時間の有効活用

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①探究サイクルを意識し、主体的に課題を見出し、授業で身に付けた学び方を活用する意識の醸成
- ②単元構成の工夫、効果的なICTの活用、評価活動の工夫
- ③思考を深め、個別最適な学びに向けた授業改善（自己決定の場の提供）

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①「家庭学習何もしないをゼロに!」を基にした家庭学習習慣の育成
- ②望ましい学習習慣・生活習慣を確立するための中学校との連携
- ③各種アンケート分析結果に基づく、家庭への啓蒙
- (4) その他・・・職員間での対話を活発に

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 8年 4月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・学校経営方針の全体懇談会での説明 ・家庭学習の手引きの保護者への配付 ○R 8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）
5月	・放課後学習の実施。（年間を通じて）
6月	・校内研究授業の実施 ○標準学力調査結果分析
7月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・夏休み学習サポートの実施
8月	・校内研究授業の実施 ○R 8全国学力・学習状況調査結果分析
9月	・チャレンジテスト（1学期末問題）の分析と授業改善 ・学校評価（中間評価）、授業評価の実施・分析 ・家庭学習定着に向けた取組、内容の見直し
10月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
12月	・公開研究授業の実施 ・小中合同学校運営協議会の開催 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・冬休み学習サポートの実施
R 9年 1月	・チャレンジテスト（2学期末問題）の分析と授業改善 ・学校評価、授業評価の実施・分析 ・CSメンバーによる学校関係者評価委員会の開催
2月	・校内研修の反省と次年度の計画立案 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施
3月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 ○新学力向上改善プランの作成 ・学校評価結果の公表・新年度の学校経営方針の提示

5 評価方法

- (1) ①「単元テスト」「AIドリル」等による定着度の評価
②全国学力・学習状況調査や標準学力調査、チャレンジテスト等による定着度の評価
③学習サポートや放課後学習の実施状況、参加人数と各種アンケートによる評価
- (2) ①全教員の授業公開による評価
②児童の様子や記録媒体、テスト結果の記録化による検証
③公開研究会（外部講師招聘）の実施による検証
- (3) ①「全国学力・学習状況調査」、「保護者・児童アンケート」による定着度の評価
②小中合同学校運営協議会、小中連携推進委員会等による実態の把握と研修会の実施
③各種アンケートによる評価
- (4) 各種懇談や面談における保護者の声からの見取り